

土方歳三（峰章山）

道場鉄則武人誓 試衛館中激咤声
歳三土方思救国 春宵抜劍唱忠誠

解説 新撰組で活躍した土方歳三を詠った詩。

道場の鉄則 武人の誓

試衛館中 激咤の声

歳三 土方 救国を 思い

春宵 剣を 抜いて 忠誠を 唱う

語釈 ※土方歳三 新選組時代には、近藤勇の右腕として組織を支え、戊辰戦争では旧幕軍側指揮官の一人として各地を転戦し、最後の戦場となった五稜郭で戦死。※鉄則 厳しいきまり。※武人 軍事を職とする人。武士。※試衛館 近藤勇の養父である近藤周助が創設した。四代目は近藤勇が継ぎ、この道場には後の新選組の中核をなすメンバーが顔を連ねており、土方歳三、沖田総司、井上源三郎、山南敬助、食客として永倉新八、原田左之助、藤堂平助、斎藤一等が所属した。※激咤 叱咤を激励。大声で励まして元氣付け、奮い立たせること。※救国 国の危難を救うこと。

通釈 試衛館の鉄則を武人として誓い、稽古中の道場は叱咤激励の音が響き渡っている。その道場に通う土方歳三は救国を思い、剣に向かつて忠誠を唱えた。